

科研費公募説明会

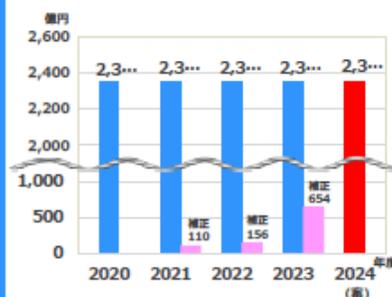
学習院大学研究支援センター

令和6年8月

事業概要

- 人文学・社会科学から自然科学まで全ての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる「学術研究」（研究者の自由な発想に基づく研究）を格段に発展させることを目的とする競争的研究費
- 大学等の研究者に対して広く公募の上、複数の研究者（8,000人以上）が応募課題を審査するピア・レビューにより、厳正に審査を行い、豊かな社会発展の基盤となる独創的・先駆的な研究に対して研究費を助成
- 科研費の配分実績（令和5年度）：
応募約9万件に対し、新規採択は約2.5万件（継続課題と合わせて年間約8.1万件の助成）

予算額の推移



主な制度改善

- [H23] 基金化の導入（基礎研究（C）、若手研究（B）等）
- [H27] 国際共同研究加速基金の創設
- [H30] 区分大括り化、審査方法の刷新
- [R03] 国際先導研究の創設
- [R05] 基礎研究（B）の基金化

令和5年度補正予算及び令和6年度予算額の骨子

基金化種目の拡大や若手研究者の育成に資する研究種目の充実等により**若手研究者への支援を強化**する。

1. 若手・子育て世代の研究者への支援強化

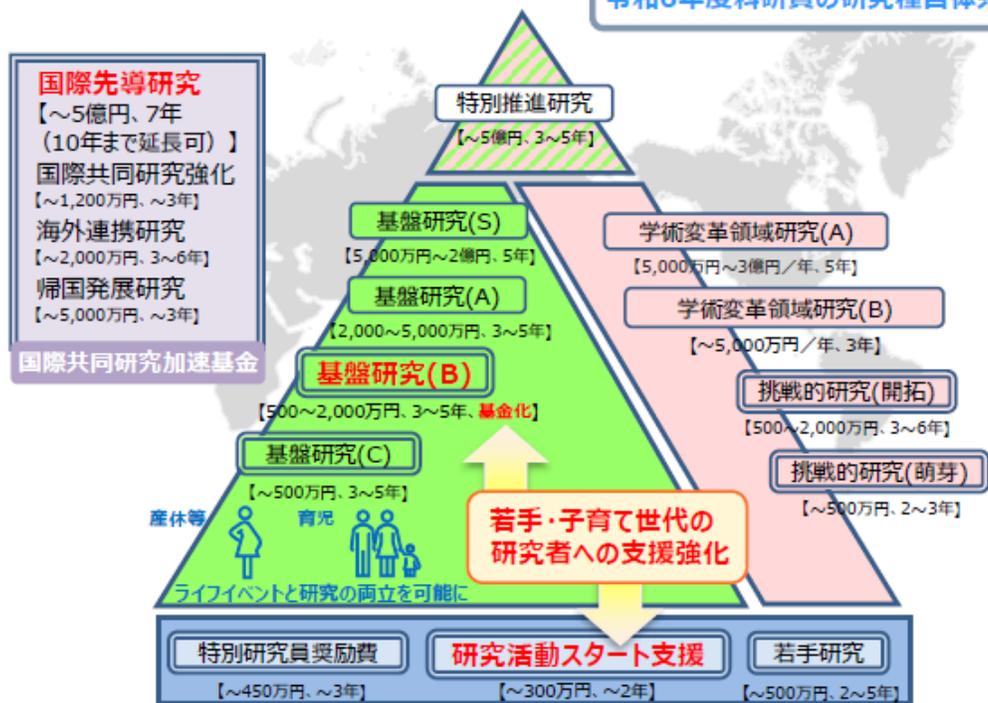
- 若手・子育て世代の研究者を含む研究者延べ約4万人が参画する「**基礎研究（B）**」において、研究の進捗に応じた研究費の柔軟な使用により研究の質を高める**基金化**を推進。
- 若手・子育て世代の研究者がより積極的に研究に復帰等できるよう、研究活動のスタートを支援する「**研究活動スタート支援**」の応募要件の緩和・支援の充実を図る。

2. 国際共同研究の強化

- トップ研究者が率いる研究チームの国際共同研究、若手の長期海外派遣を強力に推進するため、「**国際先導研究**」の充実を図る。

○ 経済財政運営と改革の基本方針2023（令和5年6月16日閣議決定）
・ 価値観を共有するG7を始めとした同土国やASEAN等との科学研究の連携を強化する。オープンサイエンスや、戦略的な国際共同研究等を通じた国際頭脳循環を加速する。
・ 研究の質や生産性の向上を目指し、国際性向上や人材の円滑な移動の促進、（中略）等³¹²を図る。
³¹²（中略）科学研究費助成事業（科研費）の基金化を含む研究活動の柔軟性を高める競争的研究費の一体的改革、研究を支えるマネジメント・支援人材の活用促進等。

令和6年度科研費の研究種目体系



※二重枠線は基金化種目
（担当：研究振興局学術研究推進課）

（日本学術振興会
科研費説明会
「資料1」より抜粋）

【応募する種目の選び方】

1点勝負

基盤研究C

(or 若手研究)

複数応募

基盤研究B+

挑戦的研究

重複回避

不採択回避

代表課題+

分担課題

※
研究テーマによっては
学術変革への応募も



応募に当たっては、以下の各資料等を参照してください。

①公募要領等の確認

- ✓ 応募する種目の [公募要領](#) は確認しましたか
- ✓ 応募する種目の [評定基準等](#) は確認しましたか

「公募要領」
日本学術振興会HP
<https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/>

②研究者登録情報の確認 (e-Rad及び科研費電子申請システム)

- ✓ [e-Rad](#) で研究者登録情報が正しく登録されていますか
- ✓ e-RadのID・PWで[科研費電子申請システム](#)でログインできますか

「e-Rad」
府省共通研究開発管理システム
<https://www.e-rad.go.jp/>

「科研費電子申請システム」
<https://www-shinsei.jsps.go.jp/kaken/index.html>

③研究計画調書の 作成・提出

- ✓ 応募する種目の [公募要領\(別冊\)](#) は確認しましたか
- ✓ [科研費電子申請システム操作手引き](#) は確認しましたか

(日本学術振興会
科研費説明会
「資料2」より抜粋)

機関番号	研究種目番号	応募区分番号	小区分	整理番号
00000	00	0	00000	0000

令和X(20XX)年度 基盤研究(C) (一般) 研究計画調書

令和XX年XX月XX日
1版

新規

研究種目	基盤研究(C)	応募区分	一般				
小区分							
研究代表者 氏名	(フリガナ)						
	(漢字等)						
所属研究機関							
部局							
職							
研究課題名							
研究経費 (千円未満の 端数は切り 捨てる)	年度	研究経費 (千円)	使用内訳(千円)				
			設備備品費	消耗品費	旅費	人件費・謝金	その他
	令和X年度						
	令和X年度						
	令和X年度						
	令和X年度						
	総計						
開示希望の有無	審査結果の開示を希望する						
研究計画最終年度前年度応募	--						

区分の選択に迷ったら
「KAKENデータベース」を参照してください。
<https://kaken.nii.ac.jp/ja/>

研究内容を具体的に表すような研究課題名
(一般的、抽象的な表現は避ける。)を入力
してください。インパクトも重要です。

研究経費は各種目の上限額までの計画を
お勧めします。通常、採択されても3割程度
削減されてしまいます。

不採択の際に参考となるため
希望してください。

研究組織（研究代表者及び研究分担者）				
氏名（年齢）	所属研究機関 部局 職	学位 役割分担	令和X年度 研究経費 （千円）	エフオ ート （%）
00000000 (00)				
00000000 (00)				
00000000 (00)				
合計 00 名		研究経費合計		

「役割分担」欄は研究実施計画に対する分担事項を中心に、研究代表者、研究分担者がどのように協力して研究を行うのか、それぞれの関連がわかるように記載してください。

令和7(2025)年度公募からe-Radに登録された以下の情報を科研費電子申請システムに連携します。

【科研費電子申請システムに連携する情報】

- ・応募中の研究費
- ・受入予定の研究費
- ・e-Rad外の研究費（民間財団からの助成金、企業からの受託研究費や共同研究費など）
- ・兼業や、外国の人材登用プログラムへの参加、雇用契約のない名誉教授等を含む現在のすべての所属機関・役職
- ・所属機関への研究インテグリティ誓約状況

e-Radの【研究者情報】において、研究インテグリティに係る情報を登録していない場合、応募が出来ませんので、ご注意ください。

代表者・分担者の別に関わらず、すべてのメンバーが研究インテグリティに誓約していないと応募できません。e-Radと科研費電子申請システムの連携には時間を要しますので、お早めの登録をお願いします。

1 研究目的、研究方法など

本研究計画調書は「小区分」の審査区分で審査される。記述に当たっては、「科学研究費助成事業における審査及び評価に関する規程」（公募要領参照）を参考にすること。

本研究の目的と方法などについて、4頁以内で記述すること。

冒頭にその概要を簡潔にまとめて記述し、本文には、(1)本研究の学術的背景や本研究の着想に至った経緯、研究課題の核心をなす学術的「問い」、(2)本研究の目的および学術的独自性と創造性、(3)関連分野の研究動向と本研究の位置づけ、(4)本研究で何をどのように、どこまで明らかにしようとするのか、(5)本研究の目的を達成するための準備状況、(6)本研究がどのような国際性（将来的に世界の研究をけん引する、協同を通じて世界の研究の発展に貢献する、我が国独自の研究としての高い価値を創出する等）を有するかについて具体的かつ明確に記述すること。

本研究を研究分担者とともに行う場合は、研究代表者、研究分担者の具体的な役割を記述すること。

- ・変更前の(1)の「学術的背景」と(3)の「着想に至った経緯」は、記載内容に重複する部分や関連する部分が多く含まれることから、1つの指示書きとして(1)にまとめられた。
- ・(6)として「国際性」に関する記載を求める指示書きが追加された。※基盤A・B・C

変更前	変更後(R7公募～)
<p>冒頭にその概要を簡潔にまとめて記述し、本文には、(1)本研究の学術的背景、研究課題の核心をなす学術的「問い」、(2)本研究の目的及び学術的独自性と創造性、(3)本研究の着想に至った経緯や、関連する国内外の研究動向と本研究の位置づけ、(4)本研究で何をどのように、どこまで明らかにしようとするのか、(5)本研究の目的を達成するための準備状況、について具体的かつ明確に記述すること。</p> <p>本研究を研究分担者とともに行う場合は、研究代表者、研究分担者の具体的な役割を記述すること。</p>	<p>冒頭にその概要を簡潔にまとめて記述し、本文には、(1)本研究の学術的背景や本研究の着想に至った経緯、研究課題の核心をなす学術的「問い」、(2)本研究の目的及び学術的独自性と創造性、(3)関連分野の研究動向と本研究の位置づけ、(4)本研究で何をどのように、どこまで明らかにしようとするのか、(5)本研究の目的を達成するための準備状況、(6)本研究がどのような国際性(将来的に世界の研究をけん引する、協同を通じて世界の研究の発展に貢献する、我が国独自の研究としての高い価値を創出する等)を有するかについて具体的かつ明確に記述すること。</p> <p>本研究を研究分担者とともに行う場合は、研究代表者、研究分担者の具体的な役割を記述すること。</p>

1 研究目的、研究方法など

本研究計画調査は「小区分」の審査区分で審査される。記述に当たっては、「科学研究費助成事業における審査及び評価に関する規程」（公募要領参照）を参考にすること。

本研究の目的と方法などについて、4頁以内で記述すること。

冒頭にその概要を簡潔にまとめて記述し、本文には、(1)本研究の学術的背景や本研究の着想に至った経緯、研究課題の核心をなす学術的「問い」、(2)本研究の目的および学術的独自性と創造性、(3)関連分野の研究動向と本研究の位置づけ、(4)本研究で何をどのように、どこまで明らかにしようとするのか、(5)本研究の目的を達成するための準備状況、(6)本研究がどのような国際性（将来的に世界の研究をけん引する、協同を通じて世界の研究の発展に貢献する、我が国独自の研究としての高い価値を創出する等）を有するかについて具体的かつ明確に記述すること。

本研究を研究分担者ともに行う場合は、研究代表者、研究分担者の具体的な役割を記述すること。

（概要）

概要は10行程度で記述する。

（本文）

11ポイント以上（英語は10ポイント以上）の大きさの文字を使用する。

○読みやすく書く

- 見出しや箇条書き、余白等を使って読みやすく記載する。
- ※指示書きに従って書く

○効果的な図を入れる ※白黒印刷でも見やすいもの

- 審査委員の理解の助けとなる図を入れる。

○研究計画をわかりやすく書く

- 年度ごとに、何をどのように行うかを記載する。
- ※予算との整合性をとる

○代表者・分担者（・協力者）の役割を明記する

○「国際性」に関して記載する 【基盤研究A・B・C】

- 各分野で「国際性」の定義は異なることから、審査においては、できるだけ幅広い意味を持たせるとのこと。
 - ・ 国際共同研究を実施していることのみをもって、国際性が高いと評価するものではない。
 - ・ 「国際性」ととらえやすい将来的に世界の研究をけん引する、協同を通じて世界の研究の発展に貢献する、我が国独自の研究としての高い価値を創出する以外の内容であっても、当該分野で「国際性」として評価されるものは積極的に評価する。

2 応募者の研究遂行能力及び研究環境

応募者（研究代表者、研究分担者）の研究計画の実行可能性を示すため、(1)これまでの研究活動（主要な研究業績を含む）、(2)研究環境（研究遂行に必要な研究施設・設備・研究資料等を含む）について2頁以内で記述すること。

「(1)これまでの研究活動」の記述には、研究計画に関連した国際的な取組（国際共同研究の実施歴や海外機関での研究歴等）がある場合には必要に応じてその内容を含めること。また、研究活動を中断していた期間がある場合にはその説明などを含めてもよい。

過去の研究業績の羅列ではなく、
応募する研究課題を実行できる
根拠となる業績を記載する。

令和7年度公募から適用される指示書き

応募者（研究代表者、研究分担者）の研究計画の実行可能性を示すため、(1)これまでの研究活動（**主要な研究業績を含む**）、(2)研究環境（研究遂行に必要な研究施設・設備・研究資料等を含む）について2頁以内で記述すること。

「(1)これまでの研究活動」の記述には、研究計画に関連した国際的な取組（国際共同研究の実施歴や海外機関での研究歴等）がある場合には必要に応じてその内容を含めること。また、研究活動を中断していた期間がある場合にはその説明などを含めてもよい。

研究業績は網羅的に記載するものではなく、応募された研究計画の実行可能性を説明する上で、その根拠となる文献等の主要なものを記載するよう、研究計画調書の「留意事項」に示されてきたが、「研究業績を記載しなくてよい」といった誤った認識として捉えられている事例もあることから、

研究計画調書の指示書き「(1)これまでの研究活動」の記述において、「主要な研究業績」も記述できることが明確にされた。

3 人権の保護及び法令等の遵守への対応（公募要領参照）

本研究を遂行するに当たって、相手方の同意・協力を必要とする研究、個人情報の取扱いの配慮を必要とする研究、生命倫理・安全対策に対する取組を必要とする研究など指針・法令等（国際共同研究を行う国・地域の指針・法令等を含む）に基づく手続が必要な研究が含まれている場合、講じる対策と措置を、1頁以内で記述すること。

個人情報を伴うアンケート調査・インタビュー調査・行動調査（個人履歴・映像を含む）、提供を受けた試料の使用、ヒト遺伝子解析研究、遺伝子組換え実験、動物実験など、研究機関内外の倫理委員会等における承認手続が必要となる調査・研究・実験などが対象となる。

該当しない場合には、その旨記述すること。

- ・ 該当しない場合は、「該当しない」と記載してください。
- ・ 簡易的なアンケート調査であっても、人権への配慮を記載してください。

<記載例>

本研究では、〇〇〇に関し、△△△を対象としたアンケート調査を実施する。アンケート調査の実施については、人権の保護および法令等を遵守する。必要に応じて、学習院大学の人を対象とする研究倫理委員会へ申請をし、承認を得る手続きを行う。

審査区分について

- “学問分野の体系化を趣旨としたもの”、“大学の学科・専攻や学会の分野などに基いているもの”のいずれでもない。
- 固定化されたものでなく、学術研究の新たな展開や多様な広がりにも柔軟に対応できるよう設定。
(小区分は「〇〇関連」、中区分は「〇〇および関連分野」、大区分は分野名を付さずに記号 (A~K) で表記)
- 応募者は自らの判断により、「応募する研究種目」に対応する「審査区分」を選択。

基盤研究(S)に応募する場合、
大区分を選択して応募



応募者

基盤研究(A)、挑戦的研究
に応募する場合、
中区分を選択して応募

基盤研究(B)・(C)、若手研究
に応募する場合、
小区分を選択して応募

小区分の内容の例：
あくまで小区分の内容を理解する
ための助けとするためのもの

審査区分表 (総表) 抜粋

大区分A	
中区分1：思想、芸術およびその関連分野	
小区分	
01010	哲学および倫理学関連
01020	中国哲学、印度哲学および仏教学関連
01030	宗教学関連
01040	思想史関連

審査区分表 (中区分、大区分一覧) 抜粋

大区分A	
中区分1：思想、芸術およびその関連分野	
小区分	内容の例
01010	[哲学および倫理学関連] 哲学一般、倫理学一般、西洋哲学、西洋倫理学、 日本哲学、日本倫理学、応用倫理学 など
01020	[中国哲学、印度哲学および仏教学関連] 中国哲学思想、インド哲学思想、仏教思想、書誌 学、文献学 など

大区分・中区分で審査される
研究種目は特に、広い分野の
審査委員で審査していること
を意識し、内容は専門分野が
離れた審査委員にも理解しや
すいように記載する。

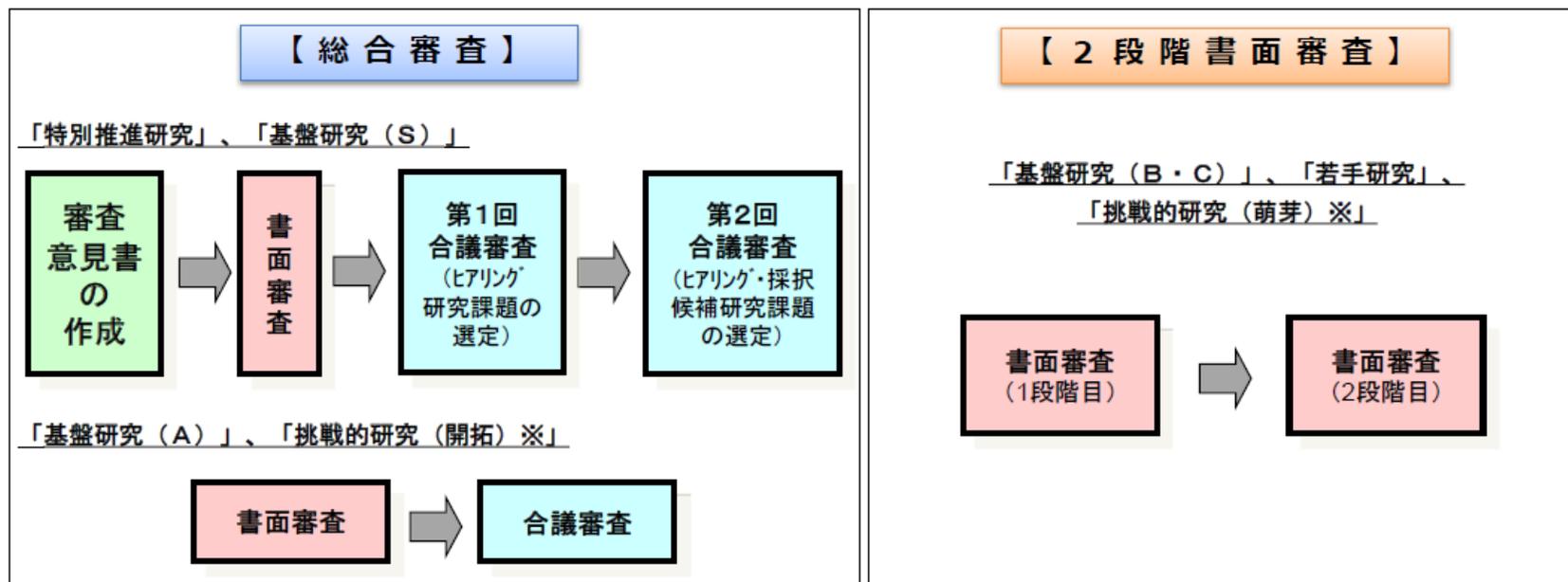
区分の選択に迷ったら
「KAKENデータベース」を参照してください。
<https://kaken.nii.ac.jp/ja/>

(日本学術振興会
科研費説明会
「資料2」より抜粋)

審査の流れと評価基準等について

審査の流れ

科研費の審査は「書面審査を行った審査委員」が、他の審査委員の審査意見等を参照し、自身の審査内容を再検討できる審査システムとなっています。



※挑戦的研究は、必要に応じて事前の選考を行った上で、書面審査を行います。

なお、挑戦的研究（萌芽）の審査は、令和3（2021）年度公募以前は総合審査で行っていましたが、令和4（2022）年度公募からは2段階書面審査で行っています。

評価基準等

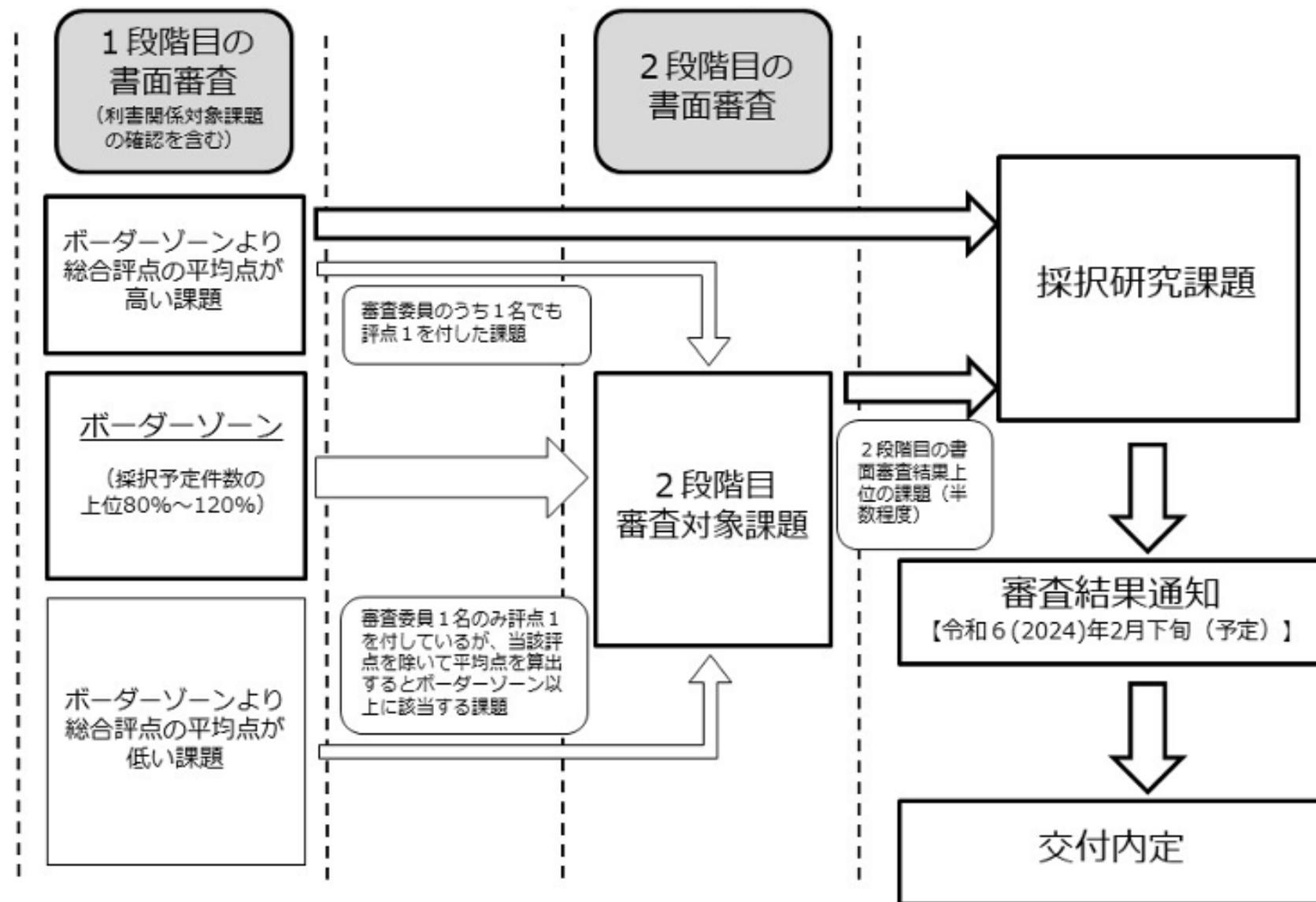
科研費の審査は各種目で定められた評価基準等に従って審査されますので、研究計画調書の作成に当たっては必ず評価基準等を確認してください。

https://www.jsp.go.jp/j-grantsinaid/01_seido/03_shinsa/index.html#u20230311174420



（日本学術振興会
科研費説明会
「資料2」より抜粋）

【2段階書面審査の流れ】



日本学術振興会
「基盤研究(B・C)(応募区分「一般」)、若手研究 審査の手引」
より抜粋

令和7年度公募から適用される評定要素【基盤研究A・B・C】

【A. 研究計画の内容に関する評定要素】

(1) 研究課題の学術的重要性

- 学術的に見て、推進すべき重要な研究課題であるか。
- 研究課題の核心をなす学術的「問い」は明確であり、学術的独自性や創造性が認められるか。
- 研究計画の着想に至る経緯や、関連する国内外の研究動向と研究の位置づけは明確であるか。
- 本研究課題の遂行によって、より幅広い学術、科学技術あるいは社会などへの波及効果が期待できるか。

(2) 研究方法の妥当性

- 研究目的を達成するため、研究方法等は具体的かつ適切であるか。また、研究経費は研究計画と整合性がとれたものとなっているか。
- 研究目的を達成するための準備状況は適切であるか。

(3) 研究遂行能力及び研究環境の適切性

- これまでの研究活動等から見て、研究計画に対する十分な遂行能力を有しているか。
- 研究計画の遂行に必要な研究施設・設備・研究資料等、研究環境は整っているか。

【B. 研究課題の国際性に関する評定要素】(新規：絶対評価)

- 本研究課題の遂行によって、国際性(将来的に世界の研究をけん引する、協同を通じて世界の研究の発展に貢献する、我が国独自の研究としての高い価値を創出する等)を発揮することが期待できるか。

研究計画調書は、評定基準等に示す「評定要素」の観点に沿って作成する。

【基盤研究B・Cの評定要素】

※若手研究には国際性に関する評定要素はない

〔評定要素〕

A. 研究計画の内容に関する評定要素

(1) 研究課題の学術的重要性

- ・学術的に見て、推進すべき重要な研究課題であるか。
- ・研究課題の核心をなす学術的「問い」は明確であり、学術的独自性や創造性が認められるか。
- ・研究計画の着想に至る経緯や、関連する国内外の研究動向と研究の位置づけは明確であるか。
- ・本研究課題の遂行によって、より広い学術、科学技術あるいは社会などへの波及効果が期待できるか。

評点区分	評定基準
4	優れている
3	良好である
2	やや不十分である
1	不十分である

(2) 研究方法の妥当性

- ・研究目的を達成するため、研究方法等は具体的かつ適切であるか。また、研究経費は研究計画と整合性がとれたものとなっているか。
- ・研究目的を達成するための準備状況は適切であるか。

評点区分	評定基準
4	優れている
3	良好である
2	やや不十分である
1	不十分である

(3) 研究遂行能力及び研究環境の適切性

- ・これまでの研究活動等から見て、研究計画に対する十分な遂行能力を有しているか。
- ・研究計画の遂行に必要な研究施設・設備・研究資料等、研究環境は整っているか。

評点区分	評定基準
4	優れている
3	良好である
2	やや不十分である
1	不十分である

B. 研究課題の国際性に関する評定要素

- ・本研究課題の遂行によって、国際性（将来的に世界の研究をけん引する、協同を通じて世界の研究の発展に貢献する、我が国独自の研究としての高い価値を創出する等）を発揮することが期待できるか。

評点区分	評定基準
4	大いに期待できる
3	期待できる
2	概ね期待できる
1	あまり期待できない

1点や2点がつくと採択は難しい。

【1段階目の審査における評価】

各研究課題の採択について、上記「A. 研究計画の内容に関する評定要素」(1)～(3)の評定要素に着目しつつ、総合的な判断の上、下表右欄の評点分布に従って4段階評価を行い、総合評点を付してください。(担当研究課題数が少ない場合は、この限りではありません。)

なお、「利害関係」にあたる研究課題の場合は「利害関係の理由」欄に理由を記入してください。

また、研究計画調書における「研究費の応募・受入等の状況」欄、「人権の保護及び法令等の遵守への対応」欄は、審査において付す総合評点には考慮しないこととしているため、それ以外の各欄等に基づいて総合評点を付してください。「研究費の応募・受入等の状況」欄、「人権の保護及び法令等の遵守への対応」欄の審査における取扱いは、「iii 留意事項」を確認してください。

評点区分	評点分布の目安
4	10%
3	20%
2	40%
1	30%
利害関係があるので判定できない	—

注：評価にあたっては、以下を目安として評点を付してください。

「4：非常に優れている」、「3：優れている」、「2：普通」、
「1：劣っている」



3点以上をとる！

日本学術振興会ホームページ「審査・評価について」

https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/01_seido/03_shinsa/index.html

申請書の提出

→電子申請システムで提出。紙媒体の提出は不要。

個人で提出するのではなく、大学でまとめて提出するので、学振の締切より早く、学内締切を設けます。

※電子申請システムで提出しても、直接学振には届きません。

学内締切 令和6(2024)年9月3日(火)

学振締切 令和6(2024)年9月18日(水)16時30分